

非難の大合唱

A chorus of disapproval

Nature Vol.454 (551) / 31 July 2008

エイズとの闘いは形勢が不利になりつつあるが、現状のような中傷合戦は勝利をいっそう遠ざけるだけである。

エイズに関する世界規模の話し合いは、責任追及と非難を大声で叫び合う中傷合戦の様相を呈し始めている。こうした危ない傾向は、2008年8月初旬にメキシコシティで開催される第17回国際エイズ会議に出席する数千名の脳裏に焼きつけられるはずである。

現在、世界全体の HIV 陽性者は 3300 万人にのぼり、毎日 6800 人を超える人々が HIV に感染している。殺菌剤やワクチンの試験は失敗に終わっており、しかも一部のボランティア被験者が HIV に感染するリスクを高めるような結果を招いた。さらに、批判の矛先は、エイズ計画やこれらの問題を解決しようと尽力する人々に向けられており、なかにはワクチン開発への政府レベルの資金援助を停止させるよう求める声さえある。

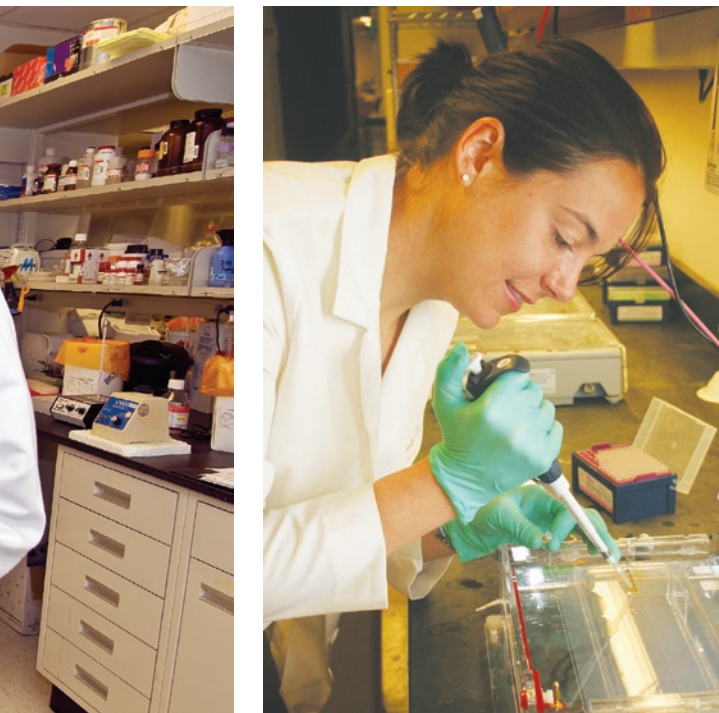
しかし、これは過剰反応である。多くの科学者が指摘しているように、マラリアワクチンの研究では数十件の臨床試験が実施されて失敗に終わっているが、有効性の研究でこれまでに試験されたエイズワクチンは 3 種類しかない。必要なのは、試験対象となるすぐれたワクチン候補であり、当然のことながら、米国立衛生研究所をはじめとするエイズワクチン試験の主な資金援助組織は現在、こうしたワクチン研究の前進に役立つような基礎研究に重点を置きつつある (*Nature* 454,



565-569; 2008 を参照)。

その一方で、昨年出版された 2 冊の本によれば、国連エイズ合同計画 (UNAIDS) は、エイズに対して政治的な動機による無駄な反応を招き、さらなる資金を集めるために統計データを歪曲したとされる (*Nature* 447, 531-532; 2007 を参照)。また、グレナダで小規模のシンクタンクを運営している Roger England などの批評家たちは、エイズへの支援金提供が貧困国の優先事項を歪めて、そうした国々の保健医療制度を弱体化させてしまったと考えている。英国は、UNAIDS を停止させて、エイズ計画に費やされている資金を保健医療制度への総合的支援に回すべきだと提案している。こうした問題に関する議論が渦巻くなか、UNAIDS の創設者で現責任者である Peter Piot が年末に辞任する意向を 4 月に明らかにしたため、UNAIDS は大事な時期でありながら不安定な状態に置かれている。

多くの貧困国の保健医療制度が四苦八苦の状態にあることは間違いないが、それがエイズ救済のせいだというのは間違いである。実際、各種のエイズ計画によって、貧困国でも効率のよい抗レトロウイルス療法などの新しいモデルを用いることで必要な医療の実施が可能になることが明らかになっており、資源の豊富な国でな



米国立衛生研究所 (NIH) をはじめとするエイズワクチン試験の主な資金援助組織は現在、ワクチン研究の前進に役立ちそうな基礎研究に重点を置きつつある。左は、NIH の HIV ワクチン臨床試験ネットワーク代表の Larry Corey、右はスクリプス研究所 (カリフォルニア州ラホーヤ) で研究を進める Colleen Doyle (*Nature* 7 月 31 日号 News Feature 'THE NEXT SHOT' より)。

ければ高価な薬剤が正しく使われないとする非難は沈静化されている。

また、保健医療制度全体に支援金を提供すれば各国政府はエイズと闘うために支援金を有効に使うはずだという、英国がいつているような予想も正しくはない。現在、エイズ治療普及に向けた多くの戦略は、これまで政府機関によって無視されてきた (こうした「事態の軽視」がエイズ蔓延に油を注いだのだが)、女性や同性愛者、静注麻薬使用者などの集団を対象としている。エイズ治療と保健医療制度の強化の両方にもっと多くの資金を費やすべきである。そして、日本で7月に開催されたG8サミットで再度取り上げられたように、支援金を拠出する各国政府がアフリカへの総合支援および疾患特異的な支援の公約などを果たせば、そうした強化が可能はずである。

その一方で、米国上下院が大統領エイズ救済緊急計画 (PEPFAR) への480億ドル (約5兆1800億円) の拠出を再認可したことは心強い (そのうち90億ドル (約9700億円) は、マラリアおよび結核との闘いにあてられる)。予想通りにブッシュ大統領がこの法案に署名すれば、米政府はこの計画に沿うことで、HIVを保有する旅行者の入国を禁止するという恥ずべき方針を

撤回することも可能になる。それにより、HIV陽性者に対する差別をまだ是認している他国政府に、模範例を示すことになるだろう。

国連加盟国による2000年の決議で、2010年までにエイズ治療をどこでも誰でも受けられるようにすること (ユニバーサルアクセス) が約束されたが、世界の現状はこの目標達成にまだ遠く及ばない。現在、300万人が救命のために抗ウイルス薬の投薬を受けているが、低所得国および中所得国に住む投薬の必要な人々の70パーセントは、そうした抗ウイルス薬による治療を受けていない。実際、国が集中的なエイズ対策を取らないと何が起こるかは、富裕国の例からも明らかである。例えば米国では現在、ラテン系住民や若い男性同性愛者でHIV感染率が上昇し始めていることが報告で明らかになっている。

メキシコシティーに集まる活動家や科学者たちは、各国首脳がエイズ問題から目をそらさぬよう要求すべきである。現在、世界には治療と介護を切に必要としている場所にそれらを提供するモデルがすでに存在しており、エイズ対策の成果を目に見える形で得られる状況になっている。後戻りなどしている場合ではない。このメッセージを、メキシコシティーで開催される会議において強く明確に発信すべきである。 ■